
QA37 放射線の影響で二分脊椎裂、無脳児等が生まれるのですか。

二分脊椎裂、無脳児といったいわゆる神経管開存症という病気は日本では 1,500 人に 1 人の確率で産まれてきます。また、全ての赤ちゃんの異常を含めると、生まれたときに 100 人に 3 人、5 歳までに 5 人の異常が見つかるといわれています。

放射線との関連ですが、神経管開存症と放射線被ばくとの関連は証明されていますが、関連性が示されているのは一度に 200 ミリシーベルトを超えるような多くの被ばくを、赤ちゃんの体ができるいわゆる器官形成期(妊娠 16 週未満)に浴びた場合といわれています。

原発事故や核実験を原因とする低線量被ばく(年間 20 ミリシーベルト等)のデータは乏しく、主に医療被ばく(胃の透視や CT の検査等で 1 回に数ミリシーベルトの比較的多い被ばく)との関連で調べられていることが多い状況です。現在、福島県で考えられるような、低線量の放射線では胎児の神経管開存症は増加しないと考えられています。

出典：福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センターウェブサイトより作成

出典の公開日：平成 24 年 11 月 20 日

本資料への収録日：平成 26 年 3 月 31 日